



2021 修学旅行 2泊3日の行程無事終わる!

出発前は、天候が心配され、新型コロナが危惧されと、落ち着かなかったのは事実ですが、市内三中学校の中では最も遅い日程ということもあってか、旅行日当日は、生徒も教員も比較的心にゆとりがあったように感じました。クラスはA～E組の5クラスですが、3密回避の観点から、バスを8台に増やしての移動となったため、学級の仲間全員でバス内レクリエーションをしたり、カラオケをしたりという光景が全くなかったのは、ちょっぴり寂しかったかも知れません。

さて、旅行第1日目。まず訪れたのが、県内最南端の市である熊野市。鬼ヶ城を散策してクラス写真を撮影したのち、世界遺産「熊野古道」へと足を踏み入れました。時折、苔むす石畳の坂道で転びそうになりながらも、無事に松本峠に到着しました。そこから眺める七里御浜の風景をみた瞬間、ハアハアと言いながら、汗かきながら歩いた甲斐があった…と思った生徒は少なくなかったことと思います。続いて訪れた「熊野古道センター」では、学芸員さんの説明を聞いたり、館内展示見学をしたりと過ごしたのですが、「熊野古道」を歩いた直後だったので、より一層頭に入ったのではないのでしょうか。また、何年後に、気の合う仲間や未来の家族と、再び訪れてほしいものです。



ところで、左の写真は、宿泊した「鳥羽シーサイドホテル」の食事会場の様子です。大きな舞台がある400畳ほどの大広間で、通常なら向かい合って食べる場所、全てのお膳を前向きに設置してもらいました。ここにも、感染症対策が十分施されており、安心安全の旅ができた要因の一つでもありました。

次に、旅行第2日目。朝からやや天候が冴えない中でしたが、体験別学習に出かけました。メニューは、「シーカヤック」、「真珠アクセサリ製作」、「ジェルキャンドル製作」、「食器絵付け」の4種類。中でも、天候に左右される「シーカヤック」が実施できたのは何よりで、参加した生徒たちは操作にもすぐに慣れ、「思ったよりスピード感があった」や「海の上で風が気持ちよかった」などの感想が聞かれました。また、「真珠アクセサリ製作」では、アコヤガイから真珠を取り出すところからはじめ、気に入ったデザインのネックレスに天然真珠を貼り付け満足げな様子でした。どの体験メニューも、日頃できない貴重なものとなったようです。



シーカヤック



真珠アクセサリ製作

続いて訪れたのは、多くの生徒たちお待ちかねの「志摩スペイン村」でした。日曜日ではありましたが、コロナ禍であるのと、あいにくの天気であったためか人手もまばらで、ほぼ中部中学校の貸し切り状態でした。残念だったのは、ジェットコースター系のアトラクションが休止だったのと、パレードが中止になったことでしたが、みんな童心に帰って楽しんでいたのが見て取れました。



スプラッシュモンセラーにて

旅行第3日目。修学旅行の最終日に相応しく、朝から良い天気に恵まれました。この日最初の訪問地は、鳥羽湾に浮かぶ「イルカ島」でした。島全体がテーマパークのようになっていて、最後にイルカのショーを見学したのですが、2頭のイルカが繰り広げるダイナミックな演技に、子どもたちからは大きな拍手が沸き起こっていました。鳥羽駅前の港と「イルカ島」との往復には、3階建ての大型船「龍宮城」を使用し、しばしの間、風光明媚な鳥羽湾クルーズを楽しみました。



イルカショー



クルーズ船内にて



テーブルマナー講座



牛赤肉の赤ワインブレゼ 温野菜添え

船を降りた一行が向かったのは、鳥羽屈指のリゾートホテル「鳥羽国際ホテル」。このホテルは、日本の皇族方や政財界の著名人、外国の要人が宿泊することで知られ、「真珠の海に抱かれるリゾート」というコンセプト通りのたたずまいでした。ここで体験したのは、フランス料理のフルコース

スを堪能しながらの、テーブルマナー講座でした。どの子どもどの子も（もしかして先生も？）、慣れない手つきで、ナイフとフォークを使って美味しい料理に舌鼓を打っていました。ただし、生徒たちが料理をどこまで味わえたのかは、ちょっぴり疑問ですが・・・。

この後は、三重県を代表する観光地、伊勢神宮内宮ならびにおはらい町を訪れ、お土産品を見ながらの散策を楽しみました。帰路では、つい最近オープンしたばかりの、日本最大級の商業リゾート施設「VISION (ヴィソン)」に立ち寄った後、無事、二泊三日の行程が終了しました。

* 沖縄が北陸、北陸が三重県内と、昨年度同様、変更を余儀なくされた修学旅行。残念であったことには違いないのですが、むしろ新たな発見があったこともまた事実です。行ってそうで行っていない三重県の魅力ある観光地や、産業・歴史等に触れることができたのは、むしろ大きな価値があったと思います。付け加えるならば、県内という安心感があったからこそそのプランを立てることができたのではないのでしょうか。コロナ禍の昨今、全国の小中学校が修学旅行の行き先を見直したそうですが、コロナ後も、決して定番の旅行先（京都・奈良、東京、沖縄など）ではなく、日本各地にその目的地が広がっているのだとか。ちなみに、中部中学校の現2年生、1年生の修学旅行先は、これまで通り「沖縄方面」となっています。



亀山市の行政情報番組「マイタウンかめやま」では、毎年、夏休み特別企画として、中学生アナウンサーが市民の皆さんに情報を伝えています。今年も、中部中が8月13日(金)～19日(木)の期間を担当することとなりました。今回、出演してくれるのは、写真左から、藤本璃俐さん(2年A組)、賣土利貴さん(2年F組)、市川奏音さん(2年E組)の3人です。このたび、3人は、収録の前に、市の広報かめやまに掲載される紹介記事のための取材を受けました。みんな、緊張した面持ちでしたが、藤本さんは「笑顔でやりたいです」、賣土さんは「硬くならないことを心掛けます」、市川さんは「ハキハキと元気よくやります」と、それぞれ意気込みを語ってくれました。市民の皆さんからも好評のこのコーナー。今から、オンエアが待ち遠しいところです。



中学生アナウンサー に中部中の3人が登場!